

偉人の習慣 vol.7

大きな成果は、小さな習慣から生まれる

本多静六

林学博士・投資家

給料の「4分の1」を貯蓄し続けた男

日 本初の林学博士でありながら、投資家として億万長者になつた本多静六（ほんだ・せいろく）は、幕末の1866年に現在の埼玉県久喜市に生まれた。生家は裕福な農家だったが、本多が9歳の時に父親が亡くなってからは、多額の借金のため、苦学することとなる。

84年に東京山林学校（現在の東京大学農学部）に入学し、主席で卒業した。大学卒業後、林学を学ぶため留学したドイツで、恩師・プレントナー博士と出会う。師から勤儉貯蓄の教えを受けた本多は、帰国後の25歳時から、地道な貯蓄に励む。

その方法とは、「月給4分の1天引き貯金」だ。学者の少ない給料から容赦なく4分の1を天引きして貯金してしまう。残りの4分の3で節約しながら生活するのである。

本多によれば、勤労生活者が金を貯めるには、節約だけでは十分ではない。本業に差し支えない範囲で、本業にも何かしら役立つことでアル

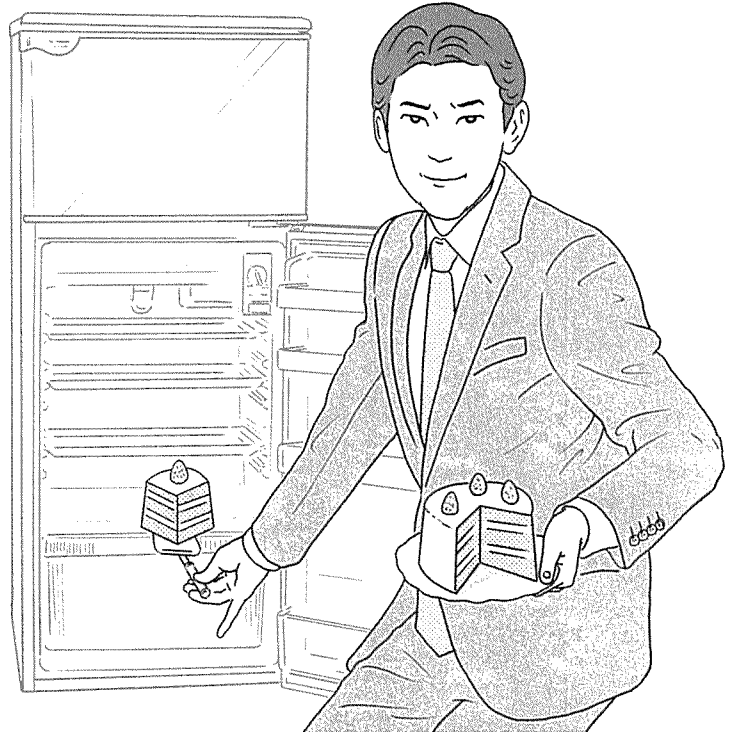
バイトをすることを勧めている。

本多の場合、それは文章の執筆だった。「1日1頁（ページ）」を書き続け、生涯で370余冊もの著書を生み出した。

本業の給与と貯金、アルバイトまでも大したことはない。まとまった資金ができたなら、株式と土地山林に投資した。その結果、巨万の富を得る。

株式は、「二割利食い、十割益半分手放し」法である。早い段階で買値の二割益が出た場合は、キツパリ売ってしまう。そして利益と元金ともども、銀行定期に預けなおした。長い年月寝かせておいて二倍以上になった場合は、半分を売る。つまり元金を預金に戻すのである。残り半分が暴落して紙くずになっても損することはない。

本多が山林に投資したのは、師の教えもあったが、山林こそが、本多の学者としての専門でもあったからだ。本来、投資とは誰かを応援する



ことである。自分の好きな分野、好きな人を支援するための方法の一つが株式を買うことなのである。

あなたも応援する分野や人を決めて、投資をしてみたいかがだろうか。こうした観点からの投資は、財を成した人によく見られる。

多くの人は、お金があつたら使つてしまふ。時間があつたら遊んでしまふか、怠けてしまふ。だからお金が貯まらない。あなたもまずは、実践しやすい給与の「6分の1」程度の天引きから始めてみてはどうか。本業に役立つことでかつ、本業に差

し障りのない範囲で、アルバイトを探してみてもいいだろう。

本多は晩年、財産のほぼすべてを匿名で公益団体に寄付してしまう。同郷の実業家、渋沢栄一に影響を受けていたこともあり、倫理観の高い人でもあった。



経営コンサルタント
堀越吉太郎

●東京生まれ。世界有数のビジネスコンサルタント、マイケル・E・ガーバーから直接指導を受け、起業家精神に目覚める。「ガーバー一流社長が会社にいても回る「仕組み」経営」(中経出版)など著書多数。